

ハウスきゅうりの点滴灌水施肥栽培での窒素施肥

【1 成果の概要】

無加温ハウスを利用した点滴灌水施肥栽培での、10アール(約2,000株)あたりの適正窒素施用量は、次のとおりです。

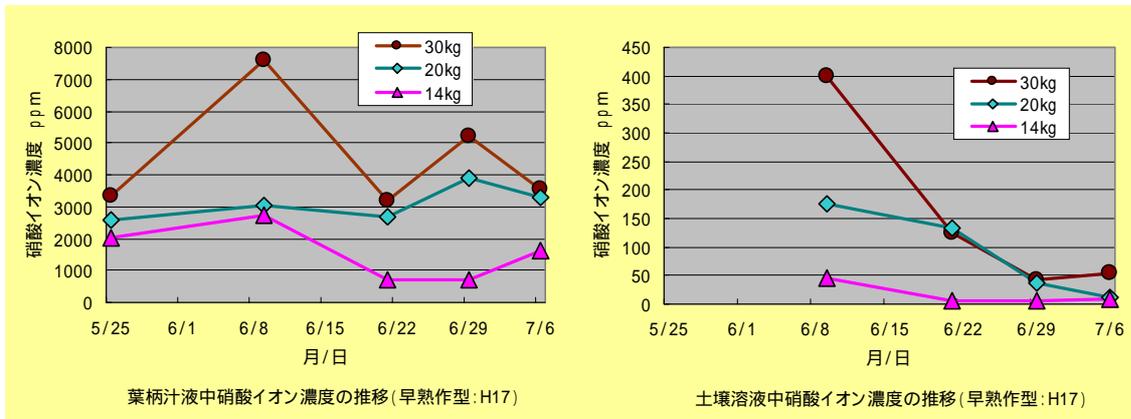
4月中旬定植の早熟栽培で20kg、7月下旬定植の抑制栽培で20kg、合計40kg。

月 旬	4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
窒素施用量(mg/株/日)	67mg			134mg			67mg			134mg			67mg			134mg								
灌水量(L/株/日)	1.0			1.5			2.0			1.5			1.5			1.0								

pF値を全期間1.8~2.0を目標として管理したものである
 :定植 緑色 ; 収穫期間

【2 効果】

- 1 これまで、岩手県でのハウスきゅうりの点滴灌水施肥栽培での窒素施肥量の基準はありませんでした。
- 2 1つの作型での窒素施用量を20kgとすると、無駄な肥料を与えないので、環境に優しいきゅうり栽培が可能になります。



【3 この技術を上手に使うには】

- 1 きゅうりの品種には「はるか」を用い、収穫量を合計で12000kgと仮定していますので、収穫量が多い場合や収穫期間が長い場合には、窒素施用量はこれよりも増加します。
- 2 早熟作型開始時に10aあたり堆肥4tを施用します。両作型ともに活着1ヵ月後まで養液土耕5号、それ以降は養液土耕1号を用いると、窒素以外の10aあたり施用量は、各作型でリン酸18kg、カリ24kgとなります。

【4 こんな場面に使います】

無加温ハウスできゅうりを点滴灌水施肥栽培している生産者

【5 メリット】

環境への負荷軽減(早熟作型で慣行土耕栽培に比べて約30%の窒素施用量低減)